

おおいしざわ

大石沢ブナ希少個体群保護林

面積	計： 7.75ha （置賜森林管理署）
設定目的 （管理方針書より抜粋）	ha当たり500m ³ と高蓄積な二次林であるブナ天然林の保存と学術研究に資することを目的とする。
前回調査の評価・課題等	保護林設置目的である二次林であるブナ天然林の保存と学術研究に資するための森林が維持されている。
モニタリングの実施間隔	10年

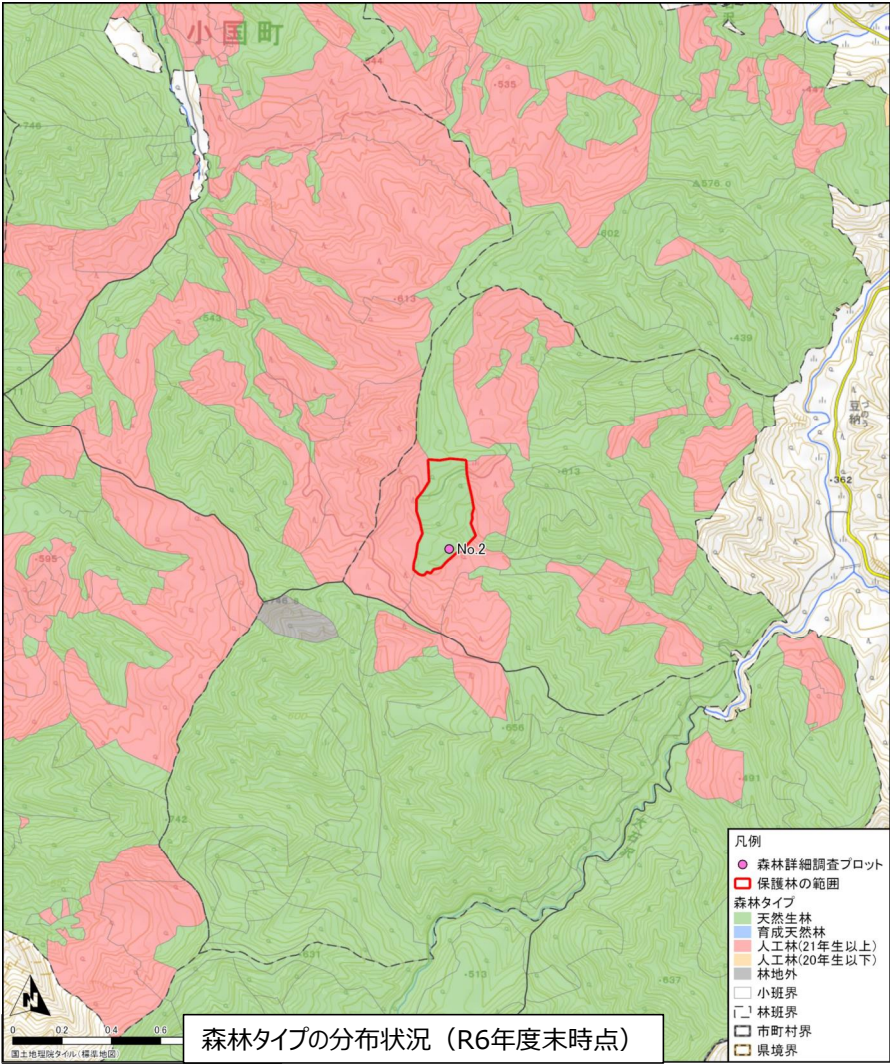
大石沢ブナ希少個体群保護林

実施した調査 資料調査、森林概況調査、森林詳細調査(1箇所)

デザイン

飯豊山の北西側の標高500m前後の山地帯に位置し、周囲はブナ二次林とスギ人工林がモザイク状に分布する

本保護林内及び周辺の森林タイプの分布に変化は確認されなかった。
現時点での蓄積量は550m³に増加。



大石沢ブナ希少個体群保護林

実施した調査 資料調査、森林概況調査、森林詳細調査(1箇所)

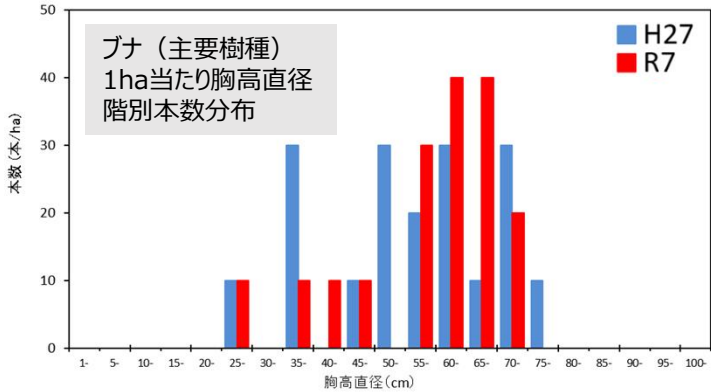
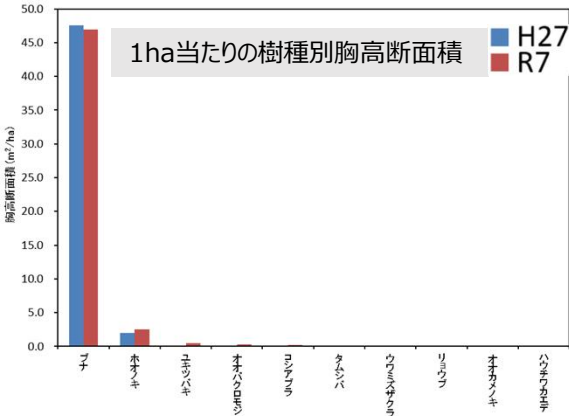
デザイン 森林概況調査、森林詳細調査

【プロットNo.2】

	H27(9月8日)	R7(8月18日)	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。 (H27 右手前のブナが 枯損・幹折れ)
磁東方向			大きな変化はない。
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向			大きな変化はない。 (H27 左の枯木が倒 伏)
天頂			大きな変化はない。 (小規模ギャップ発生)

樹種	平均胸高直径(cm)		胸高断面積(m ² /ha)		胸高断面積割合	
	H27	R7	H27	R7	H27	R7
ブナ	56.4	58.0	47.57	46.91	95.8%	92.5%
ホオノキ	50.3	57.0	1.99	2.55	4.0%	5.0%
ユキツバキ		1.8	0.00	0.48		0.9%
オオバクロモジ		1.7	0.00	0.26		0.5%
コシアブラ	7.1	7.0	0.10	0.20	0.2%	0.4%
タムシバ		2.5	0.00	0.12		0.2%
ウワミズザクラ		2.1	0.00	0.11		0.2%
リョウブ		2.1	0.00	0.03		0.1%
オオカメノキ		1.7	0.00	0.02		0.0%
ハウチワカエデ		1.0	0.00	0.01		0.0%
10種			49.66	50.71	100.0%	100.0%

※緑セルは主要樹種かつ保護対象樹種を示す。

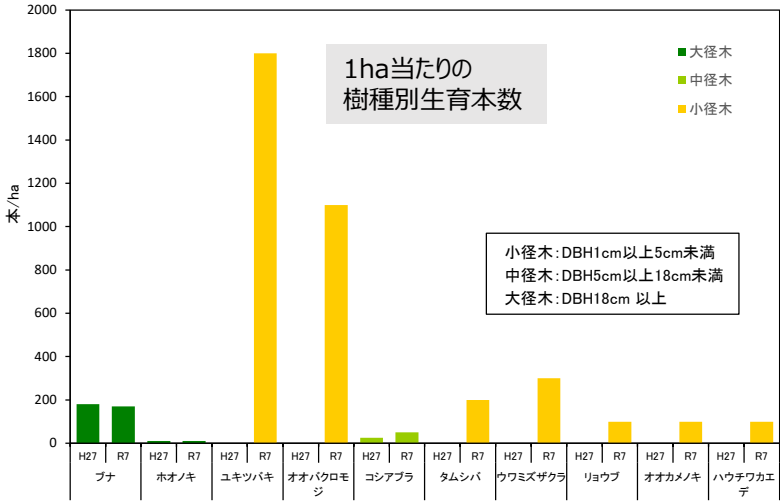


- ・主要樹種かつ保護対象樹種であるブナの胸高直径階は、進階が見られるものの胸高断面積は微減。
- ・ブナの大径木のみで構成され、倒木も発生していることから、この林分は成熟段階から老齢段階に推移していると示唆される。
- ・亜高木層が欠落しており、ブナ以外で胸高断面積割合の高い樹種はない。

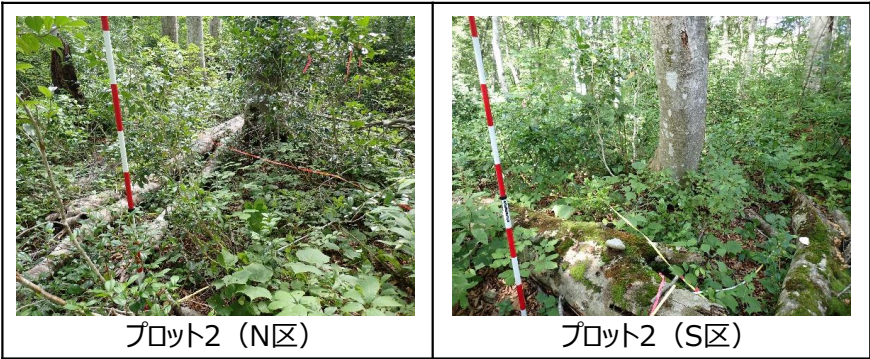
デザイン 森林詳細調査 下層植生調査結果
【プロットNo.2】

樹種	生育本数(本/ha)		本数割合	
	H27	R7	H27	R7
ブナ	180	170	83.7%	4.3%
ホオノキ	10	10	4.7%	0.3%
ユキツバキ		1800		45.8%
オオバクロモジ		1100		28.0%
コシアブラ	25	50	11.6%	1.3%
タムシバ		200		5.1%
ウワミズザクラ		300		7.6%
リョウブ		100		2.5%
オオカメノキ		100		2.5%
ハウチワカエデ		100		2.5%
10種	215	3930	100.0%	100.0%

※緑セルは主要樹種かつ保護対象樹種を示す。



- ・前回調査同様に、ブナは大径木のみであった。
- ・低木層にユキツバキが密生している（調査手法の変更により1cm以上の小径木が計測対象となったため本数が大幅に増加した）。



年度	H27	R7	
調査区	プロット全体	N区	S区
低木層の植被率(%)	60	30	30
低木層の優占種	ユキツバキ	ユキツバキ	ユキツバキ
草本層の植被率(%)	80	80	90
草本層の優占種	オオカメノキ	ウリハダカエデ	ウリハダカエデ

出現種数	33	12	15	環境省RL	山形県RL
アオダモ	○	○			
アケシバ	○				
イワガミ	○		○		
ウメガサソウ	○				
ウリハダカエデ	○	○	○		
ウワミズザクラ	○				
エゾユズリハ	○	○			
オオカメノキ	○	○	○		
オオバクロモジ	○	○	○		
ガマズミ	○				
クロヅル	○	○			
コシアブラ	○	○	○		
コハチワカエデ	○				
シケンダ	○				
シシガシラ	○				
タムシバ	○	○	○		
チシマザサ	○		○		
ツタウルシ	○		○		
ツルアジサイ	○				
ツルアリドオシ	○				
ツルウメモドキ	○				
トチノキ	○				
ハウチワカエデ	○				
ハナヒリノキ	○				
ヒトツバカエデ	○		○		
ヒメモチ	○		○		
ブナ	○	○	○		
ヘビノネゴザ	○				
ホオノキ	○		○		
ミズナラ	○				
ミヤマイタチンダ	○				
ヤブコウジ	○				
ヤマウルシ	○	○	○		
ユキツバキ	○	○	○		
リョウブ	○	○	○		

- ・下層植生の生育状況に目立った変化は見られなかった。
- ・ブナの実生が確認された（H27、H30は豊作、R4は並作）。
- ・絶滅危惧種等の重要種は確認されなかった。

デザイン

病虫・鳥獣・気象害の発生状況

項目	結果
病虫害	記録なし
鳥獣害	到達経路上の林道の広範囲において、アカソにニホンジカのものと思われる顕著な食痕が見られ、またイノシシによる掘り返しが確認された
気象害	記録なし



ニホンジカの食痕（アカソ）が林道沿いに続く



調査地の外観（プロット2）

デザインに関する評価

基準	指標	結果
希少な野生生物の生育・生息地及び個体群の存続に必要な更新適地等が維持されている	希少個体群の生息・生育環境となる森林の状況、森林の被害状況	森林タイプの分布に大きな変化は確認されなかった。
		ブナの健全な生育が確認された。
		下層植生の生育状況に目立った変化は見られなかった。

価値

保護対象種ブナの生育状況

項目	結果
被害等	記録なし。
ブナの 生育状況	ブナは亜高木層を欠くものの、生育はおおむね健全な状態であった。
	大径の個体のみが生育し、胸高直径80cm近い個体が倒伏するなど、成熟段階から老齢段階へと推移していると考えられる。
	プロット内やその周辺でブナの実生が多数確認された。
	幹折れした枯損木も確認され、林冠に小規模なギャップが生じており、今後ブナの後継樹が育つものと考えられる。



ブナの実生



ブナの幹折れで生じたギャップ

価値に関する評価

基準	指標	結果
保護対象とする希少な野生生物が健全に生育・生息している	保護対象とする希少な野生生物の生育・生息状況	ブナの生育はおおむね健全な状態である。大径木のみが生育しており、小～中径木は見られないが、林床には実生が生育する。林冠には枯損等によるギャップが発生しており、今後は後継樹が育ち、階層構造の発達した老齢段階へ推移すると考えられる。

利活用

・学術論文等は確認されなかった。

利活用に関する評価

基準	指標	結果
森林施業・管理技術の発展、 学術の研究等に利用されている	学術研究での利用	学術研究等への利用は確認されなかった。

管理体制

・置賜森林管理署：令和4年の豪雨災害により樺沢林道が被災した。入口付近は令和7年度の改良事業で通行できるが、その奥は路肩決壊等により通行止めになっている。なお、被災前は林野巡視等を行っており、林道復旧後には巡視を引き続き行う予定である。

・山形県置賜総合支庁：巡視等は実施していない。

管理体制に関する評価

基準	指標	結果
適切な管理体制が整備されている	保護林における事業・取組実績、巡視状況等	十分な管理体制が取られている。

総括表【プロット2】

調査年度		H27	R7
調査日		2015/9/8	2025/8/18
プロット情報	斜面方位、傾斜(平均)	N50° E、17°	
	局所地形	山腹凹斜面	
林分状況	段階	成熟	成熟
	【高木層】主要構成樹種	ブナ	ブナ
	【高木層】植被率	70%	65%
	【高木層】樹高	20～39m	20～38m
	【高木層】DBH	28～79cm	28～74cm
	【草本層】優占種	オオカメノキ	ウリハダカエデ
	【草本層】植被率	80%	80～90%
林分等の状況		林床にユキツバキを伴うブナ-ユキツバキ型の林分。 高木層を形成するブナは、おおそ胸高直径30～80cm、樹高20～40mと非常に大型である。亜高木層は欠落している。 下層にはブナの稚樹が見られ、良好な状態が保たれている。	ブナの生育はおおむね健全な状態である。 大径木のみが生育しており、小～中径木は見られないが、林床には実生が生育する。 林冠には枯損によるギャップが発生している。 今後は後継樹が育ち、階層構造の発達した老齢段階へ推移すると考えられる。
林況写真			

現地調査結果総括・考察【プロット2】

- ・大径木のブナが林冠を構成し、下層にはユキツバキが密生するブナ-ユキツバキ型の林分である。
- ・胸高直径階は55～75cm階の個体が多いが、25cm未満の個体は確認されなかった。
- ・ブナの胸高直径階は進階が見られるものの胸高断面積は微減した。（胸高直径80cm近い個体が倒伏したことに起因する）
- ・幹折れした枯損木も確認され、林冠に小規模なギャップが生じている。
- ・現在は亜高木層を欠く状態であるが、ブナの実生が多く見られることから、ギャップ周辺で継続的な更新が期待でき、階層構造の発達とともに、成熟段階から老齢段階へ推移すると考えられる。
- ・森林タイプの分布状況の変化や病虫害・鳥獣害・気象害は特に確認されず、本保護林は全体として安定して維持されていると考えられる。
- ・到達経路上では林道沿いの広い範囲にニホンジカのものと思われる食痕が確認されたため、今後の注視が必要である。

全体まとめ

- ・林相に大きな変化はなく、安定して維持されていることが確認された。
- ・課題については特段確認されなかった。
- ・ただし、ニホンジカの侵入や生息域の拡大が懸念されることから、今後の注視が必要である。

評価を踏まえた今後の対応等

項目	結果・対応等
今回の評価を踏まえた 今後の対応について	・定期的な巡視を継続 ・10年後にモニタリングを実施
保護・管理及び利用に関する事項 (保護林管理方針書)	原則として自然の推移にゆだねることを基本とし、施業等を必要とする場合には、管理経営の指針に基づき行うこととする。 ※現行どおりとする。